

## 東栄町小中学校耐震診断等の状況

(平成25年9月1日現在)

### 小学校

学校名	建物区分	建築年月	構造	階数	診断年度	診断結果			補強等の 必要性	補強工事年度	補強後		
						IS値	CT×SD値	q値			IS値	CT×SD値	q値
東栄小学校													
	管理棟	H25. 6	W	1	診断不要								
	教室棟	H25. 6	W	1	診断不要								
	屋内運動場	H25. 6	W	1	診断不要								

### 中学校

学校名	建物区分	建築年月	構造	階数	診断年度	診断結果			補強等の 必要性	補強工事年度	補強後		
						IS値	CT×SD値	q値			IS値	CT×SD値	q値
東栄中学校													
	普通教室棟	S49. 3	RC	3	H15	0.725	0.394	—	無				
	普通教室棟	S50. 3	RC	3	H15								
	特別教室棟	S50. 10	S	1	H20	0.28	—	1.13	有	平成21年度	0.85	1.53	
	屋内運動場	S51. 12	S	1	H15	0.35	—	0.65	有	平成16年度	0.93	1.7	
	武道場	S53. 12	S	1	H20	1.23	—	1.49	無				

※1 RC:鉄筋コンクリート造 S:鉄骨造 W:木造

※2 IS値:(構造耐震指標)地震の衝動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性を表わすもので、その数値が大きいほど地震に強い建物といえます。

IS値0.7以上 概ね、現行建築基準法による耐震基準程度の性能を有しており、建物が倒壊せず、人命に影響を及ぼすことはほとんどないと想定され、原則として耐震対策の必要はないと考えられます。

IS値0.7未満 過去の震災例を考慮すると一定の耐力は有しているものの、想定する東海地震の震度6弱以上においては、地盤状況によって大きな被害を受ける可能性がある施設と考えられ、耐震対策の検討が必要な施設です。

なお、IS値0.3未満の施設については、耐震性が劣るため、優先的に耐震対策の検討が必要な施設です。

※3 CT×SD値:CT(累積強度指標)とSD(建物形状指標)の積で、IS値が高くてもこの値が低い場合は安全としない目安で、0.3以上を安全とします。

※4 q値:(保有水平耐力の指標)水平方向の揺れに対する建物の強さの度合いに係る指標で、国では1.0以上を目標にしています。